九州大学
KYUSHU UNIVERSITY

九州大学 ロバート・ファン／アントレプレナーシップ・センター

〒812-8581 福岡市東区箱崎6丁目10番1号 産学連携棟Ⅰ
TEL:092-642-4014 FAX:092-642-4015
URL:http://www.qrec.kyushu-u.ac.jp/
E-mail:support@qrec.kyushu-u.ac.jp

2014年4月発行

九州大学 ロバート・ファン/アントレプレナーシップ・センター

ROBERT T. HUANG ENTREPRENEURSHIP CENTER OF KYUSHU UNIVERSITY QREC

青春は
何もかもが
実験である

スティーブンスン

ロバート・ファン 博士

シネックス・コーポレーション
（SYNNEX Corporation）
創業者、前会長

Chairman, SB Pacific Corporation Limited

シネックスインフォテック株式会社
代表取締役会長

スリープログループ株式会社 取締役会長

九州大学 名誉博士

アントレプレナーであるためには、いつも“危機感”を意識し、“チャンスを分析”する目が必要です。そして何よりも“行動”が重要です。

日本の企業はなかなか変化を受け入れず、また実際変化は大変遅いことがよく知られています。私は米国での創業の成功だけでなく、最近日本の中堅IT企業2社の再建を早期に成し遂げました。
私のこの経験から言えることは、本来日本企業が素早い変化に対応出来ない訳ではなく、多くの場合、日本企業のリーダーが、何時、何を変えるべきかが分かっておらず、そして変化することのリスクを極端に避けようとするということなのです。もっと正しく言い換えれば、もし日本企業のリーダーが自分たちが何をやっているかを理解し、かつリスクを懼れなく取る事ができれば、その組織は直ちに反応し結果を出すでしょう。
アントレプレナーであるために、いつも我々は“危機感”を意識し、“チャンスを分析”する目を持ち、そして“行動”する必要があります。結局のところ、結果を生み出すのは“行動”しかないのです。
もしも九州大学の人たちが大胆に“行動”しなければ、QRECは決して誕生していなかったでしょう。この事を私は強調したいと思います。
皆さまの果敢な“行動”に心から敬意を表します。

谷川　徹 教授

ロバート・ファン/アントレプレナーシップ・センター センター長

産学連携センター
教授・副センター長

自らの夢実現にチャレンジするグローバル・リーダーを九州大学から輩出すべく、アジアでトップクラスのアントレプレナーシップ・センターを目指します。

アントレプレナーシップ(起業家精神)は、利益追求型ベンチャーの起業に限らず、社会的起業や大企業における新事業創造、あるいは学術機関や公的機関での新たなアイデアへの実現努力など、社会のあらゆる分野で求められる重要なものです。優れた素質を持つ九州大学の学生は、社会におけるリーダーとして世界に羽ばたく大きな可能性を秘めていますが、彼らが自らの夢実現のため積極的に新しい価値創造にチャレンジすること、すなわちアントレプレナーシップを発揮することは、個人の幸福と社会の繁栄の実現につながります。
本センターは、学内外、国内外のあらゆる人々や組織と連携し、そのようなグローバル・リーダーを九州大学から輩出すべく、あらゆる努力を傾注する所存です。
また教育手法やカリキュラム編成等に関しても、日本の現状を踏まえながら国際標準を積極的に取り入れ、新しい試みに取り組んでまいります。そして日本におけるアントレプレナーシップ教育のモデル確立を目指したいと思います。

Concept

設立背景

九州大学　ロバート・ファン/アントレプレナーシップ・センター（以下QREC）は、本学において、新たな価値創造に対するチャレンジ精神を育むアントレプレナーシップ（起業家精神）教育や、研究や技術の社会での活用方法を学ぶMOT（技術経営）教育等に対する、組織的取り組みの必要性が高まってきたことを背景に、本学卒業後渡米し大成功をおさめたロバート・ファン博士の百周年記念寄付を契機として設立されたものです。
QRECは、ベンチャービジネスの萌芽たる研究開発の支援中心であった、九州大学ベンチャー・ビジネス・ラボラトリーを発展的に改組・再構築して設立されたものですが、ファン博士の寄付の背景には、同博士の支援により2006年から毎年開講され大きな成果を上げている、米国シリコンバレーでのアントレプレナーシップ・プログラム（QREP）の存在があります。本センターは、QREPの成果・精神をより多くの学生に提供する本格的教育・研究センターとしての任を担っています。

活動内容

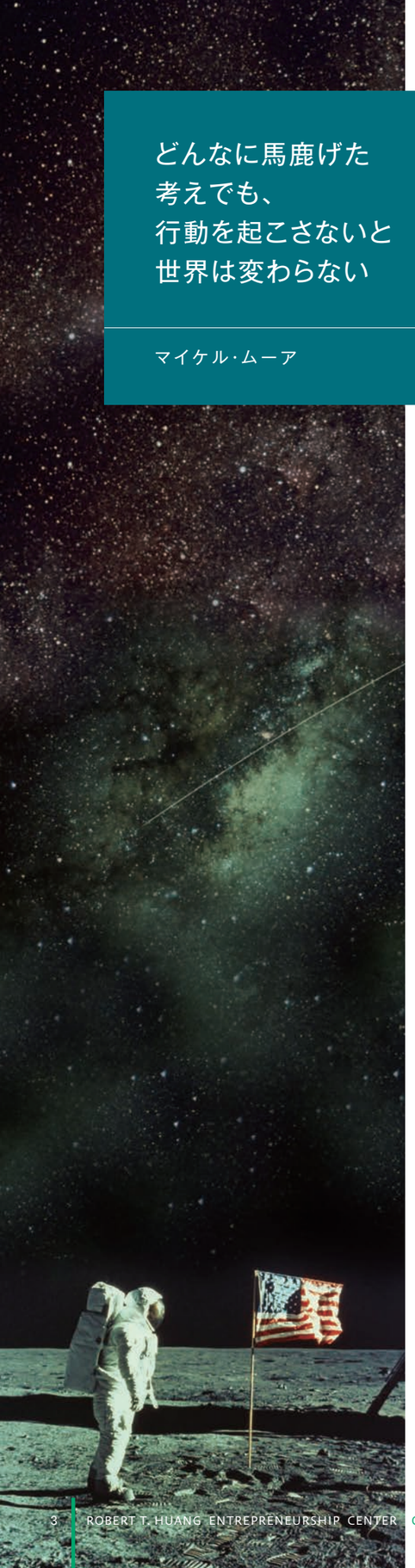
QRECでは、九州大学の全学学生を対象として、先進的で体系的なアントレプレナーシップ教育を行うとともに、同教育において定評のある海外の大学を中心に国内外の大学等との連携を構築し、教育・研究活動を行っていきます。

QRECの主な活動は次に挙げる6つです。

- 全学学生を対象とした先進的かつ体系的なアントレプレナーシップ関連教育の提供
- アントレプレナーシップ研究および効果的な教育法の研究実施
- アントレプレナーシップに関する社会・地域連携活動の実施
- アントレプレナーシップに関する情報発信、国内外機関等との連携・交流実施
- ベンチャービジネスに関する研究開発の支援
- インキュベーション施設の運営と管理

世界を舞台に活躍するリーダー人材の育成

これらの取り組みによって、九州大学におけるリーダー人材育成、九州大学の国際化促進とブランド力向上、社会連携（産学連携）機能の強化等の実現を目指しています。



どんなに馬鹿げた
考えでも、
行動を起こさないと
世界は変わらない

マイケル・ムーア

使 命

◎九州大学の学生に対し、先進的なアントレプレナーシップ関連教育を提供することにより、九州大学から**自立心、向上心、グローバル意識を有し、積極的に新しい価値創造にチャレンジする、世界に羽ばたくリーダー人材**を輩出します。

◎ベンチャー起業に限らず、大企業、アカデミア等を含む社会のあらゆる分野で、新たな価値創造に挑戦する人材育成を目指します。

◎地域におけるアントレプレナーシップ醸成のハブを確立します。

育成すべき人材像

□自ら機会を発見･創造して、目標と道筋を構想する能力ある人材を育成します。
□新たな価値創造に対して積極的に挑戦する人材を育成します。
□個人としての自立意識を持つ人材を育成します。
□社会や世界を幅広く俯瞰できる知識と能力を持つ人材（T字型人材、グローバル人材）を育成します。
□知識を社会で活かす意欲と具体的価値を創造する能力ある人材（MOT人材）を育成します。

目 標

新興国ビジネスや社会的起業等、現代的な課題への対応力養成も含めた、ユニークかつ国際的競争力ある組織として、九州、日本はもちろんのこと、アジアにおける本格的かつトップクラスのアントレプレナーシップ教育･研究組織を目指します。

Global
［ グローバル ］

米国やアジアなど、世界の大学や企業等とネットワークを結び、国際標準の教育カリキュラムを目指すとともに、国際的な学生交流、教員交流を積極的に進めます。また留学生の積極的な参加を求め、多様性のある環境を提供します。

Practical
［ プラクティカル ］

座学による講義に留まらず、ケーススタディや現実のアントレプレナーのゲスト講義、具体的なプロジェクトベース教育、双方向のディスカッション等、リアルでインパクトのある講義を行います。また産学連携を生かし、企業との連携講義やインターン等を進めます。

Design
［ デザイン ］

新しい社会的価値実現のためには、問題が何かを探索し発見した問題解決のための構想を立てること（Design）が必要です。またその発想力や能力を高めることは、自らの夢実現にも繋がります。QRECはそのようなデザイン力養成を目指します。

特 色

学部/大学院一貫の体系的アントレプレナーシップ教育

日本で初めて、学部生、大学院生を対象とした一貫的、体系的アントレプレナーシップ教育を提供します。

アントレプレナーシップ教育、MOT教育等の融合

狭義でなく広義のアントレプレナーシップ教育を目指し、リーダー人材を育成します。

グローバル性重視

MITはじめ世界主要大学等と連携し、最適･最良のリソースと交流機会を確保し、留学生の積極参加、国際関係学部(構想)との連携等による国際的な教育を実施します。

分野融合･多様性確保

工学研究院、システム情報科学研究院、農学研究院、芸術工学研究院、21世紀プログラム等、学内各部局と相互連携した教育を企画･実施します。部局横断的なプロジェクト企画や多様なバックグラウンドの学生融合を図ります。

プラクティカル、産学連携

国際的な学生ネットワーク参加を慫慂、また双方向･参加型の教育を目指します。
具体的なプロジェクトを用い、リアルな体験型教育を目指します。
産業界と積極的に連携し、人材や教育の場の提供を求め実践的教育を目指します。

現代ニーズ対応

新興国ビジネス、社会的起業等、現代の多様かつ新たな動きに対応します。

QREC コア教員

准教授 五十嵐 伸吾
ロバート･ファン/
アントレプレナーシップ･センター
副センター長
専門分野
アントレプレナーシップ、
経営戦略論

教授 谷川　徹
ロバート･ファン/
アントレプレナーシップ･センター
センター長

産学連携センター 副センター長
専門分野
地域経済政策、アントレプレナーシップ、産学連携

特任准教授 玉置 浩伸
ロバート･ファン/
アントレプレナーシップ･センター
センター長補佐
専門分野
起業、ベンチャー経営

准教授 牧野 恵美
ロバート･ファン/
アントレプレナーシップ･センター
センター長補佐
専門分野
経営戦略論、知識創造理論、社会システム理論、
ポジティブ組織開発、アプリシアティブ･
インクワイアリー（Appreciative Inquiry）、
アントレプレナーシップ

准教授 高田　仁
経済学研究院
産業マネジメント部門
専門分野
産学連携マネジメント、
技術経営（MOT）、
アントレプレナーシップ

准教授 朱　穎
経済学研究院
産業マネジメント部門
専門分野
イノベーションマネジメント

准教授 平井 康之
九州大学大学院
芸術工学研究院
デザインストラテジー専攻
専門分野
インテリアデザイン、オフィスデザイン、
ものづくりデザイン、インクルーシブデザイン

未来を予測する
最善の方法は、
自らそれを
創りだすことだ

アラン・ケイ

特色あるプログラム・プロジェクト例

Program 教育プログラム

九州大学 ロバート・ファン/アントレプレナーシップ・プログラム［QREP］

九州大学出身で米国シネックス社の創業者・前会長であるロバート・ファン博士らの支援によるアントレプレナーシップ（起業家精神）と国際意識の涵養を目的とした教育プログラムです。米国シリコンバレーに1週間滞在し、多彩な現地講師らによる講義や、スタンフォード大学等との学生との交流を通じて、自らのキャリア形成を考え、チャレンジ精神を高める機会を提供します。協定校である早稲田大学からも学生が参加しています。

アントレプレナーシップ・セミナー

新産業の創出のためには、シーズを生み出す研究活動とあわせ、新しいことへの挑戦を促すアントレプレナーシップ（起業家精神）に富む人材育成が必要です。QRECでは、起業家精神涵養と学生個々が自らのキャリアを考える機会提供を目的として、オムニバス形式の「アントレプレナーシップ・セミナー」を企画・開催しています。

Project 学生プロジェクト

チャレンジ＆クリエイション［C&C］

C&Cは、「キャンパスから創造と挑戦の風を起こそう」を掲げ、九州大学に在籍する院生や学部生が自ら企画するユニークな研究・調査プロジェクトをサポートする全学事業で、1997年からスタート致しました。これまでの参加学生数は延べ650人を超えます。採択したプロジェクトの中には行政や地域のコミュニティに活動が広がっていくものも少なくなく、九州大学の独自性を示す象徴的なプロジェクトに成長しました。自分自身の独創的でイノベイティブ（革新的）な発想を自ら開発・展開・実践することで「九大生」であることを問いかけてみませんか?

九大祭起業体験プログラム［QSHOP］

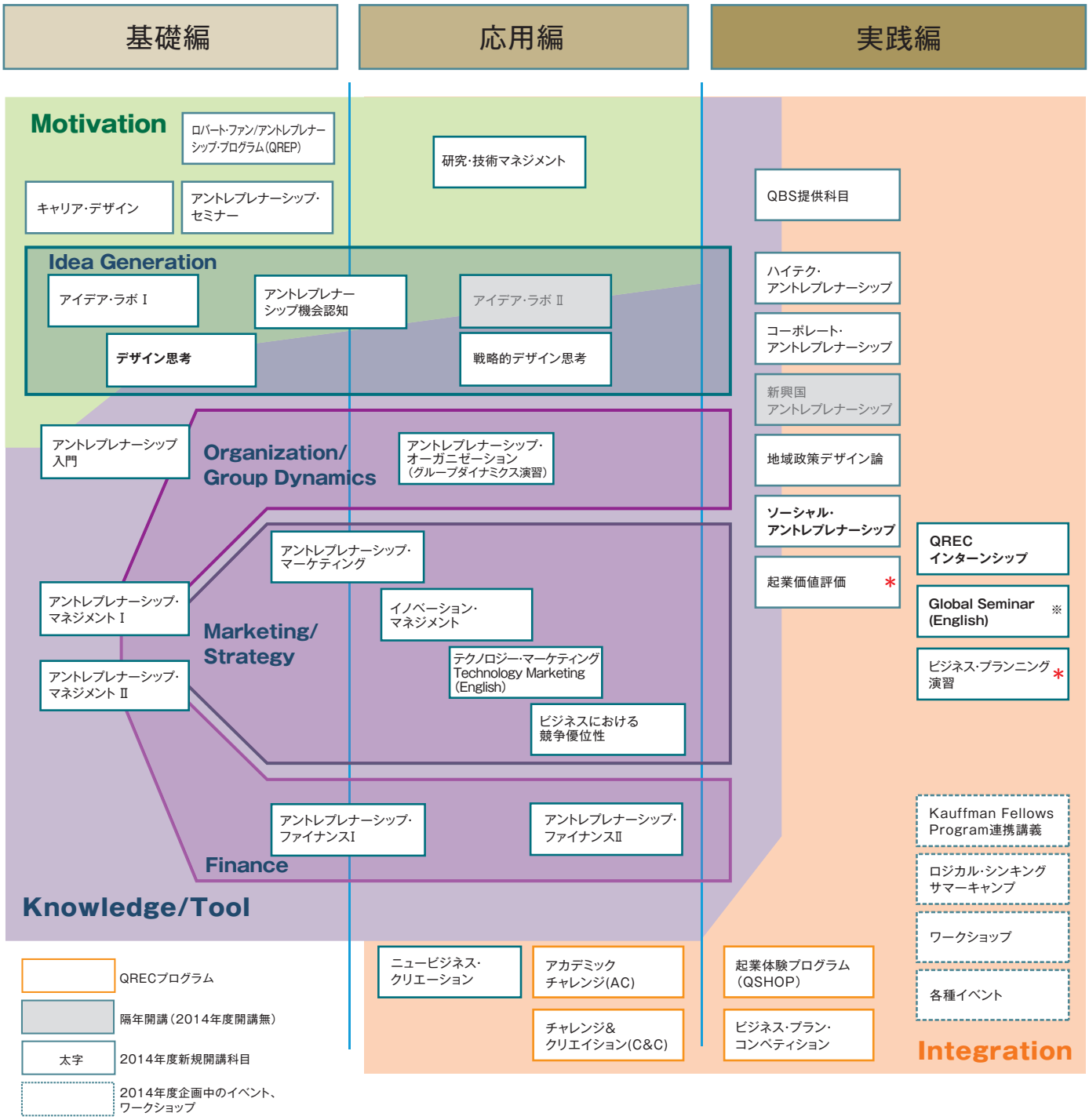
九大祭という場を利用して、起業を体験してみよう!というプロジェクトです。参加者学生は「起業家」になり、「投資家」の出資を受けて模擬店「会社」を起業、「九大祭」という市場を切り拓きます。事業計画策定→会社設立→計画発表→増資→仕入れ→売り場づくり→販売活動→決算書づくり→監査→株主報告という、一連の起業のプロセスを踏む中でリアルな会社経営を経験するプログラムです。

アカデミックチャレンジ［AC］

アカデミックチャレンジ（AC）とは九州大学に在籍する院生を対象にした研究助成です。学生自らが研究計画を企画し、必要な資金を手当てし、実際の研究を行う、この一連の実践を通じて「研究マネジメント」を習得することを狙いとしています。将来のイノベーションに繋がる萌芽的な研究を促進するために学生が自らの発想で学術研究に向き合い、独創性、柔軟性を発揮できる機会を提供します。

Curriculum ——カリキュラム

（2014年3月現在）



*2015年度以降開講予定　※海外講師招聘集中講義になります。

学部1,2年 → 学部3,4年、修士1,2年 → 博士・専門職大学院生

カリキュラムにある科目は、全学の学生が副専攻的な位置付けで履修出来ます。上図のように基礎から実践へと段階的にアントレプレナーシップが学習できるようにデザインしています。最初は、周囲の「問題」や自らの「志向」に気付くことが大切です。次に問題解決のためには「アイデアを創出」（Idea Generation）する創造性を鍛え、「市場」を知り「戦略」を考え（Marketing/Strategy）、「お金」（Finance）を集め、仲間を募り「組織的な活動」（Organization/Group Dynamics）に拡大させる必要があります。このために必要な知識やノウハウ（Knowledge/Tool）を学び、それを統合(Integration)し実践できるまでの科目を用意しています。